

令和7年度花き研究シンポジウム
「気候変動にともなう気温上昇による花き生産の諸課題とその対策」

1. 趣旨

地球温暖化にともなう近年の気候変動により、これまで単発的であった異常高温、局地的な豪雨等が頻発する状態となっている。年間を通した各地での気温の上昇は花き生産全体にも影響を及ぼし、特に夏秋期の異常高温は生育不良、開花時期の変化、奇形花の発生、着色不良、日持ちの低下など、花きの生産や品質に様々な問題を引き起こしており、その対策が急務となっている。これらの対策として、遮光・遮熱資材、ヒートポンプや細霧冷房等の活用による高温の緩和、耐暑性の高い品種の活用・育成などが行われている。またバイオスティミュラント等の新たな農業資材が注目されている。しかしながら、気温の上昇幅が大きいことに加え、品目ごとの技術の有効性が確立していないことや、資材、燃料費・光熱水費の高騰による費用対効果の問題などにより、生産現場では適切な技術の選択が難しく、十分な問題解決に至っていない状況にある。

今回のシンポジウムでは、花きの高品質で安定的な生産に向けて、気候変動にともなう気温上昇により花き生産の現場で起きている様々な課題を共有し、その技術的対策について議論する。

2. 主催

農研機構 野菜花き研究部門

3. 開催日時

令和7年10月7日（火）13:00～10月8日（水）12:00
（受付：10月7日（火）12:15～）

4. 開催場所

文部科学省 研究交流センター2階 国際会議場
（茨城県つくば市竹園2-20-5）

5. プログラム

別紙のとおり

6. 参加費

無料

7. 参集範囲

国公立試験研究機関担当者、都道府県専門技術員・普及指導員等、大学・民間団体・企業等の研究者、花き産業関係者、その他農研機構野菜花き研究部門所長が必要と認める者

8. 事務局および連絡先

農研機構 野菜花き研究部門 研究推進部研究推進室
電子メール：niki.tomoya926@naro.go.jp

(別紙)

令和7年度花き研究シンポジウムプログラム

1日目(10月7日(火)) 司会:農研機構野菜花き研究部門 大久保 直美
13:00~13:05 開会挨拶 農研機構野菜花き研究部門 所長 東出 忠桐

13:05~13:20 はじめに
「地域からの情報の報告」

農研機構野菜花き研究部門 仁木 智哉

基調講演

13:20~14:10 「進行中の温暖化と将来の気候変動による農業への影響とそのメカニズム」
農研機構農業環境研究部門 長谷川 利拓

対策に向けた基礎知識

14:10~15:00 「気候変動に抗う温室の高温抑制技術の基礎と実践」
農研機構農村工学研究部門 石井 雅久

(休憩 10分)

15:10~16:00 「栽培環境における気温の観測技法と利用」
農研機構農業環境研究部門 福岡 峰彦

16:00~16:50 「花き生産現場で問題となっている土壌病害とその防除対策」
農研機構農業環境研究部門 堀田 光生

2日目(10月8日(水)) 司会:農研機構野菜花き研究部門 久松 完
現場の事例とその対策

9:00~ 9:35 「施設花き生産での高温対策事例」
農研機構野菜花き研究部門 道園 美弦

9:35~10:10 「高温対策のために植物を知る:キクの高温開花遅延」
農研機構野菜花き研究部門 中野 善公

(休憩 10分)

10:20~10:55 「トルコギキョウにおける低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒技術の実証事例」
高知県農業技術センター 坂東 卓弥

10:55~11:30 「バイオスティミュラントの表示等に係るガイドライン」
農林水産省消費・安全局農産安全管理課 三浦 友聡

11:30~11:55 総合討論

11:55~12:00 閉会挨拶 農研機構野菜花き研究部門 野菜花き育種基盤研究領域長
久松 完